

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2370200475
法人名	有限会社 レジデンシャルケア
事業所名	グループホーム レジデンシャルケア徳川町
訪問調査日	平成20年1月28日
評価確定日	平成20年3月7日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2370200475
法人名	有限会社 レジデンシャルケア
事業所名	グループホーム レジデンシャルケア徳川町
所在地	名古屋市東区徳川町2714 (電話) 052-933-0888

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年1月28日	評価確定日	平成20年3月7日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年4月16日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 13人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	84,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(73,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 82 歳	最低	71 歳	最高	92 歳
協力医療機関名	千種さんクリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは地下に駐車場をもつ2階建てで、周囲には高層マンションやスーパーがあり徳川園も近い。リビングは目配りできる配置でテーブル、ソファ、畳スペースがある。2階の窓では近所の公園の木々から四季を感じることができ、天窗もある。理念に基づき職員は「目配り気配り心配り、心に寄り添うケアを」をモットーに、尊敬の念を持ち、家庭的な雰囲気の中で見守りのもと支援している。入居者は散歩や買い物で地域の人々とふれあい、各種ボランティアの訪問、家族も参加できる季節行事や誕生会で思い思いの生活を楽しんでいる。衛生面は手洗いと共に殺菌効果のあるドクターエアタオルを使用、アロマテラピーで空気の浄化や消臭、除菌、また、安全で美味しく人や自然に優しい(パイ)ウォーターや安全な食材を使用し健康面にも配慮している。家族アンケートからは、入居者同士仲良く安心して楽しく暮らしているとの声もあり、家族の感謝の気持ちが多数記されていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価は全職員に提示し、日報等の確実な周知のための押印やス・パ・等での買い物時の支払いの支援を実施、改善に向けて取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は外部から評価を受けることの意義ねらいについて話し、職員に自己評価票を説明し、全職員が取り組んだ。項目数が多く、時間がかかり大変だったが、自己の業務の励みにもなったとの声も聞かれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2カ月毎に自治会長、民生委員、協力医療機関医師、メディカルコーディネーター、看護師、歯科医、家族、管理者が参加し開催している。前々回より地域包括支援センターも加わり、活動内容やホームの様子を報告、議題に沿っての討議もある。議事録は職員にも提示し会議での意見や要望はミーティング等で報告しサービスの向上に向けている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年に数回、フロア毎に家族との交流会を開催し、1日の流れ等生活の様子を伝え、意見や要望、不満など話しやすい場づくり、体制をつくっている。今までに苦情はなく、何かあれば職員会議やカンファレンスで話し合い、前向きに活かしている。家族間のコミュニケーションもよく、入居者への気軽な声かけもある。ホーム内のみならず区の介護福祉課の連絡先も伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、回覧板にて情報を集め、廃品回収に参加している。老人会の敬老会に参加したり、運動会の見学、地元の祭りの山車見物をしている。オーナーが住んでいた土地柄なので顔馴染みも多く、周辺の掃除やスーパーへの立ち寄りの際気軽に声がけもしてもらっている。中学生の体験学習や他ホームの実習生の受け入れもしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4項目からなる理念の一つに「地域との交流を大切に地域に根付けるよう努力する」と掲げている。開設当初にオーナーと施設長とで作成し、地域の中でその人らしく暮らしていくことを目指した独自の理念となっている。開設前に地元、近隣の方々に説明会を開きグループホームを理解納得してもらい、町内会とも同意を得ている。毎年の年度目標は職員とともに作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や詰め所に掲示し、毎朝申し送りの際唱和している。管理者は理念の4項目の周知のために「何のために」という理由をきちんと説明している。新人研修の場でも説明、理念を意識しながら地域の方々と交流し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板にて情報を集め、廃品回収に参加している。老人会の敬老会に参加したり、運動会の見学、地元の祭りの山車見物をしている。オーナーが住んでいた土地柄なので顔馴染みも多く、周辺の掃除やスーパーへの立ち寄りの際気軽に声がけもしてもらっている。中学生の体験学習や他ホームの実習生の受け入れもしている。地域の方々がレクリエーションボランティアとして来訪して下さる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義、ねらいについて説明し、全職員で自己評価に取り組んだ。項目数が多く、時間がかかったが自己の業務の励みになった。前回の評価は全職員に提示し、日報などの確実な周知のための押印や買い物時の支払いの支援などミーティングやカンファレンスで改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2カ月毎に自治会長、民生委員、協力医療機関医師、メディカルコーディネーター、看護師、歯科医、家族、管理者が参加し開催している。前々回より地域包括支援センターも加わり、活動内容やホームの様子を報告、議題に沿っての討議もある。議事録は職員にも提示し会議での意見や要望はミーティング等で報告しサービスの向上に向けている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>東区地域包括支援センターのケアマネジャー、保健師の施設見学ではホ - ムの取り組み内容について説明した。区や市の担当者を訪問しアドバイスや多方面の情報を得たり、保健所のアドバイスを取り入れ質の向上に努めている。立ち上げ時より社会福祉協議会との連携もはかっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ホームだより「いきいき日記瓦版」に施設長のコメントをつけて家族に送付している。行事などの写真はアルバムにして玄関に置き自由に誰でも見ることができる。心身の状況に何らかの変化があれば早急に電話連絡して実情を伝えている。預かっているお小遣いより買い物などの支払いをし、預かり金明細書、領収書を家族に送付して用途の報告をしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に数回、フロア毎に家族との交流会を開催し、1日の流れ等生活の様子を伝え、意見や要望、不満など話しやすい場づくり、体制をつくっている。今までに苦情はなく、何かあれば職員会議やカンファレンスで話し合い、前向きに活かしている。家族間のコミュニケーションもよく、入居者への気軽な声かけもある。ホーム内のみならず区の介護福祉課の連絡先も伝えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職は家庭の事情によるものが多い。入居者へのダメージを防ぐため、退職の申し出は2カ月前にお願いし人員の確保に努めている。入れ替わりにより多少雰囲気に変化ができるが不安を感じないように配慮し、スムーズに移行できている。職員の異動は運営推進会議で伝え、玄関に職員の写真を提示している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には1カ月以内に研修を実施している。未経験の場合はマンツーマンでその人に応じマスターできるまでとし、期間は定めない。職員の育成に向け段階に応じた研修を支援し、外部研修は希望に応じている。研修内容は勉強会で報告、職員への共有に努め、欠席者へは資料を配布している。パート職員へは負担にならないよう配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会や認知症家族を支える会に加入し講演会に参加したり、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会(名介研)の研修にも出席している。時々、区外のホームを訪問したり、電話にて情報交換をしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問や電話での問い合わせがあればホームの見学後、生活環境や状態を把握するため管理者が自宅を訪問する。情報は紙面にし会議で職員と話し合い入居の判定に活かしている。本人の話はゆっくりと時間をかけて心情を表出できるように目線の高さを同じにして傾聴し、信頼関係を築くようにしている。家族とも相互理解に努め、泊まりにも対応している。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であり、尊敬の念を忘れないように心がけている。昔話や今までの人生を伺い、職員の知らないことを教えてもらい、共感し支え合いながら生活している。入居者の食事づくりや植木など、得意分野での知識も取り入れている。管理者は「ばたばたしたり、慌てたりせずゆったりとした心でふれあいを！自然と笑顔が生まれます。」と職員に話し意識づけをしている。職員は入居者から、時には労いの言葉をかけてもらい励まされている。家族アンケートの結果からも、明るい雰囲気を入居者同士仲良く楽しく過ごしているとの意見があがっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、入居者の立場で考え、喜んでもらえるよう努めている。日々の会話より生活歴や生活環境を知り、職員全員で統一した介護、また、残存能力の維持にも努めている。心のリハビリで新聞の音読や時事雑談、身体のリハビリで1日1000歩の歩行を目指している。言葉で表現しにくい方には職員が寄り添って焦らず話しを聞いている。ケアに対して悩みや相談は記録にとりカンファレンスやミーティングで意見交換をして、ケアプランにも活かしている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は担当制としており、介護計画はアセスメントシートのもと担当者が話し合い、カンファレンスで情報を出し合い意見をまとめ計画作成担当者が入居後1カ月以内に作成している。特に家族や担当者などの気付き、意見アイデアを活かし本人本位にたって考え、その後家族に説明し意向を確認し同意をいただいている。ホワイトボードに完成したケアプランを掲示し、職員は確認することになっており、職員間で共通したケアに心がけている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3カ月毎に見直している。また、ケアプランチェック表で毎日確認し、各入居者毎に数名の担当で日勤終了後にカンファレンスを開き話し合っている。その記録をもとに担当者が次の計画を起案し、ケアマネジャーにより立案される。入居間もない入居者には、不穩に対するケアの計画を立て、実施する中で状態が落ち着き、現状に即した介護計画となるよう随時見直している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>提携医以外の受診は原則として家族にお願いし、緊急時に家族の送迎が不可能な場合はホームで対応している。入院時には入居者への定期的な見舞いを欠かさず、退院を前提として医師、看護師と緊密に連携を取り、ホームへの帰館の可否、退院後の対応、受諾なども確認している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>提携医以外のかかりつけ医とは医療情報を提供してもらえるよう連携を取っている。提携医により緊急な検査、入院が必要な場合は、ホームで受診や送迎の支援をしている。提携医は24時間対応で月2回の往診、毎週月曜日には看護師の訪問がある。提携歯科は週に5回往診してくれる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>経口による摂食不良を目安として重度化に対応している。そのためにも日頃から細かい状態変化に細心の注意を払い、入居者の体調は職員全員が共有し、重度化の兆候が現れたらメディカルコーディネーターにより、家族とともに医師から現状、今後の予測などの話しを聞き、入院や在宅治療などの決定をしてもらっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人記録は詰め所のロッカーで施錠のもと、厳重に管理されている。入浴、排泄時は必ずカーテンを閉め、利用時に他の人が開けることが無いよう常に注意を払っている。パットの汚れなども他人に気付かれないよう、さりげなく職員は目配りし、新聞に包んで処理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>外出は隣の公園や徳川園へ多い人で週3回ほど、買い物に隣のスーパーまで毎日出かけている。盆、正月に外泊したり、逆に家族が一泊したりしている。洋裁、生け花、園芸、編み物、ちぎり絵など毎日の生活に個々の趣味が活かされている。訪問時にも「今は食べたくない」と昼食をずらす入居者が確認された。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望により毎日考えているため、1階と2階の献立は別である。職員と共に車椅子の入居者も参加して買い物に出かけ、野菜や魚介の目利きをしている。花見弁当、遠足のおにぎりや誕生日には好きな物を提供している。食中毒対策として毎食検食分を1週間冷凍保存している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は土日も対応できる。一人毎にお湯を入れ替えるため一日に3~4人だが希望があれば連日の入浴も可能である。浴槽は広い浴室の中央に設置され片麻痺があってもどちらからでも介助できるよう工夫されている。脱衣所は、温度の急変を防ぐため暖房が完備されている。最低週3回は入浴してもらえるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、生け花、お茶、ちぎり絵など入居者の趣味は多彩である。買い物、菜園の手入れ、洗濯物干し、たたみ、調理、盛り付け、食器洗い、掃除などにそれぞれ持てる力を発揮し生活を共に支えている。風船バレーボール、ボーリング、卓球は入居者から人気のレクリエーションであり、ドッグセラピーも評判がよい。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春には少し離れた公園へおにぎり、おやつを持って花見に出かけている。秋祭り、紅葉狩りなども計画され、動物園、水族館への遠足での入居者の生き生きとした表情はホーム便りの「いきいき日記瓦版」からもうかがえる。ホーム内外を含め、毎日の動線から歩数を割り出し、1日1,000歩を目標にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、玄関部分には詰め所もなく、防犯モニターの死角になり、近所では不審火も散見され、入居者を守るために施錠し、家族からも承諾してもらっている。立地上、第三者の目も期待できず、周辺は高層マンションが多く、入居者の顔が分からないという不安も大きい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回メンテナンス会社の指導により避難および、消火訓練を実施している。また、同会社により年2回の設備点検、チェックリストによる自主点検も行っている。取締役が防災責任者になり、救護訓練を勉強会で実施している。人数分の米、水、乾パン、カセットコンロ、毛布などが各階に分散して準備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎日献立を決定し入居者も買出しから参加している。食事量は1日に3回で1,200~1,500kcal、水分は3食後、2回のおやつ後、風呂上り、レクリエーションの後に1日1,500mlを目標とし、チェック表により確認している。高血圧には服薬で対応している。		水分量、摂取カロリーは大まかに把握されているが、各種持病に対する食事面での対応及び摂取栄養のバランスへの配慮のため専門家である栄養士の関与が望まれる。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはフロアスタッフの名前入りの写真や1週間分の食事の写真が掲示されている。広いリビングには、ソファの他に畳敷きの部分があり、掘こたつも用意されている。廊下は広く、車椅子での生活に対応した設備に配慮されている。アロマテラピー、加湿器、空気清浄機を配置し空気の浄化や消臭、除菌をしている。畑には、季節の作物を植えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、手すりが設置され乾燥に備えて濡れタオルがかけられている。テレビ、人形、家族の写真、時計、雑誌、自作のちぎり絵など思い思いの品が持ち込まれ、それぞれの部屋を特徴づけている。夜間には足元の誘導灯が点灯し、転倒予防への配慮がされている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。